

# 小池都知事公約「満員電車ゼロ」の実現に向けて

2016年10月10日  
(株)ライトレール

## 1. 都知事選での公約

- ・政策チラシ「満員電車をゼロへ。時差出勤、2階建通勤電車の導入促進。」
- ・7/28のテレビ出演「総2階建て車両の導入、時差出勤、信号システムの改良」(弊社が資料準備)
- ・元アイデアは2008年に小池氏の推薦文を受けて出版した『満員電車がなくなる日』(角川SSC新書)
- ・小池氏から出馬表明前に公約に入れるとの連絡を受けた

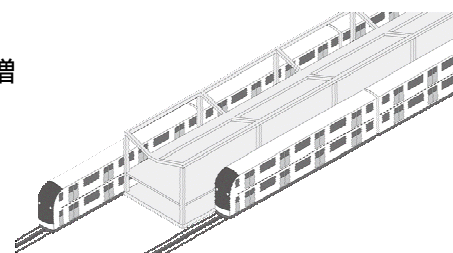
## 2. 「満員電車ゼロ」の基本コンセプト

- ・鉄道の安全を維持しつつ、鉄道事業者の経営を改善し、多額の税金投入を要せずに達成
- ・「満員電車の歴史は運賃抑制の歴史」から脱却し鉄道を発展させるチャンス
- ・運賃を一律にでなく、着席という高付加価値サービスのみを上げる
- ・普及の進む有料着席サービスを究極まで実行すると着席と立席の別商品化
- ・東京圏の鉄道利用4,000万人/日の平均客単価40円向上で6,000億円/年
- ・できない理由でなく、できる方法を考えてこそ問題解決できる



## 3. 「満員電車ゼロ」に向けた各施策 (大きい順)

- ・総2階建て車両：新線建設・複々線化の数分の1の投資で輸送力を倍増
- ・5方策：さらに安上りに輸送力増強
  - 進路開通と同時の出発、 ドア閉めと同時の出発
  - 選択停車ダイヤ、 車両の加減速度向上、 信号の機能向上
- 末端折返し路線は80秒おき(45本/h)、貫通路線は60秒おき(60本/h)に運行できるようになる
- 現行は2~3分おき(20~30本/h)なので、輸送力2~3倍に(踏切のある区間は実行不可)
- ・時差出勤：自動改札でピークを高くして個人や組織の行動を誘導、ピーク前後の増発が不可欠
- ・深夜の満員電車ゼロ：投資も運転ルール変更もせずに増発のみで解消、深夜割増で収益性確保
- ・列車別・区間別の乗車率の情報公開：車両の空気バネでリアルタイム計測している乗車率データを活用



## 4. 「満員電車ゼロ」に向けた具体的なステップ (小さい順)

- ・満員電車の「見える化」 深夜や意外な区間の満員電車が見える、施策実施後の効果も見えるように
  - ・(運営費増のみで)深夜の増発+深夜割増 深夜の「満員電車ゼロ」により業界評価向上と期待醸成
  - ・意外な区間(ex. 蘇我 千葉、横浜 桜木町)の増発 利用者の長年の不満解消により上記と同様
  - ・ピークを高く+(運営費増のみで)ピーク前後に増発 需要の分散により満員電車の緩和
  - ・5方策による夕夜間の増発+着席と立席の別商品化 夕夜間の「満員電車ゼロ」
  - ・5方策による朝の増発+着席と立席の別商品化 朝の満員電車大幅緩和
- <ここまでは踏切の除去以外は税金投入不要、以下は都市鉄道等利便増進法の改正により要税金投入>
- ・総2階建て車両の導入 朝の「満員電車ゼロ」